

三大学連携協力協定締結記念特別展示

ごあいさつ

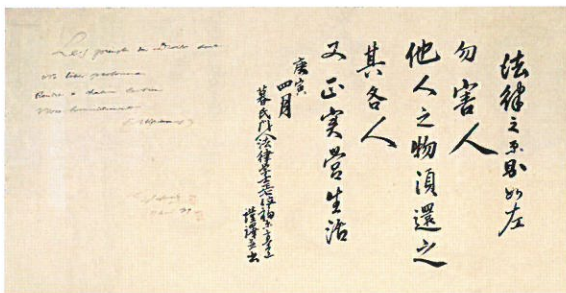
「日本近代法の父」と讃えられるギュスターヴ・エミール・ボアソナード (Gustave Émile Boissonade de Fontarabie, 1825-1910) は、1873 (明治6) 年、明治政府の法律顧問として来日し、1895 (明治28) 年に帰国するまで、20年以上にわたって日本における近代法典の編纂に多大な貢献を果たしました。

法政大学、明治大学及び関西大学の前身を立ち上げた創立者たちは、いずれも1880年代に、ボアソナードの教えと支援を受けています。1880年当時、日本には政治や法律を議論するための多くの結社が立ち上がっていました。「身分」というものを持たなくなった市民たちが、憲法の制定と国会の開設を求めて盛んに読書会を開き、議論し、あるいは演説会を開催したのです。その自由民権運動の熱気のさなか、権利の意識にめざめた当時の人びとは法律の知識を求めていました。それに応えるために創立者たちはそれぞれの学校を運営し、教育に携わり、

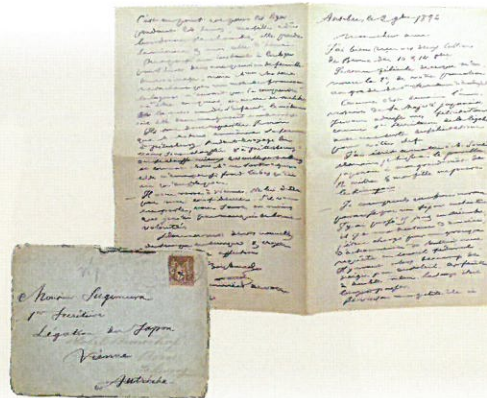
弁護活動をおこなったのです。以降、三大学は、時に競い時に協力し合いながら、近代法の整備と普及のために、ひいては近代日本の社会基盤構築のために尽力し、その中から数多の人才が輩出しました。

ボアソナードは、その新しい社会を創り上げようとする日本人の熱意を支えていました。司法省法学校などでボアソナードの警咳に接した教え子の多くはやがて司法官や法学者となり、法典編纂・法律実務にも従事し、あるいは在野法曹として、人々の力となっていったのです。

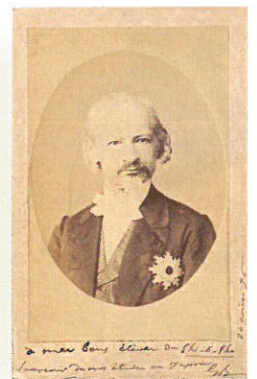
このたび、三大学の連携協力協定が締結されたことを記念して、ボアソナードの事績と、その支援によって日本の社会を変えていった人々、そして彼らが創立した三大学の活動を振り返り、世界史的な観点からその意義を改めて考える機会といたします。



ボアソナード法律原則
(法政大学所蔵)



ボアソナード書簡杉村虎一宛 (明治大学所蔵)



小倉久旧蔵写真アルバム中のボアソナード像
(関西大学所蔵)

三大学のあゆみ



関西大学

関西大学の前身・関西法律学校は、1886年に大阪西区京町堀の願宗寺で開校しました。当時大阪控訴院長だった児島惟謙をはじめ、ボアソナードの薫陶を受けた小倉久、鶴見守義、堀田正忠、井上操、手塚太郎、志方鍛ら12名が創立に携わりました。1922年には大学令によって認可されるとともに現在の千里山キャンパスに移転し、今日では4キャンパスに13学部を擁する総合大学となっています。



創立時の校舎・願宗寺



法政大学

法政大学の前身・東京法学社は1880年、ボアソナードの門下生薩埵正邦らによって創立され、草創期の教員には同じボアソナード門人で関西法律学校の創立者堀田正忠も含まれていました。のちに東京法学校と名乗ると、その教頭にボアソナードが就任し、和仏法律学校時代も含め12年間にわたり無報酬で講義が行われました。法政大学への改称後、1920年に大学に昇格し現在地へ移転、今日では15学部を擁する総合大学に発展しました。



九段上校舎(和仏法律学校時代)

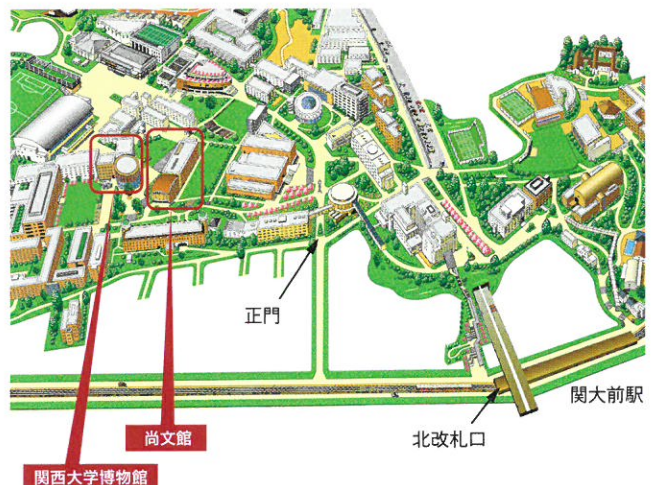


明治大学

明治大学の前身・明治法律学校は1881年、ボアソナード門下生の岸本辰雄・宮城浩蔵・矢代操の3人の創立者によって、現在の東京都千代田区有楽町の旧島原藩邸の一部を校舎として開校しました。1886年に駿河台南甲賀町に移転、さらに1911年の創立30周年を機に現在の駿河台キャンパスの地に移転しました。1920年に大学令に基づく明治大学となり、現在では4キャンパス、10学部を有する総合大学となっています。



開校当初想像画(旧島原藩上屋敷)



【関西大学千里山キャンパスへのアクセス】

- 阪急電鉄梅田(大阪)駅から阪急千里線北千里行き乗車。十三・南方・淡路を経て「関大前」駅下車(約20分)。
- 地下鉄堺筋線(阪急電車千里線相互乗り入れ)天下茶屋駅方面から日本橋・北浜・天神橋筋六丁目・淡路を経て「関大前」駅下車(約30分)。関大前駅から徒歩約10分。